

令和元年10月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,479	8,802	4,494	4,308	△ 25	△ 28
2 千 石	3,997	6,781	3,389	3,392	14	12
3 内 山	5,703	7,876	4,157	3,719	△ 6	△ 8
4 大 和	3,430	6,733	3,318	3,415	△ 9	△ 20
5 上 野	7,364	15,432	7,678	7,754	24	△ 11
6 高 見	7,366	13,480	6,430	7,050	△ 5	25
7 春 岡	6,904	10,914	5,741	5,173	12	4
8 田 代	11,551	22,061	10,623	11,438	2	10
9 東 山	10,485	19,674	9,718	9,956	0	△ 1
10 見 付	4,435	8,135	4,122	4,013	116	112
11 星 ケ 丘	3,505	6,880	3,115	3,765	△ 5	△ 2
12 自 由 ケ 丘	3,515	7,148	3,251	3,897	1	△ 5
13 富 士 見 台	6,463	15,275	7,103	8,172	10	13
14 宮 根	3,843	8,226	3,928	4,298	19	10
15 千 代 田 橋	3,682	8,446	3,963	4,483	13	4
千 種 区 計	87,722	165,863	81,030	84,833	161	115
H30.10.1	87,371	166,070	81,146	84,924	117	54
対 前 年 比	351	△ 207	△ 116	△ 91	44	61
名 古 屋 市	1,117,913	2,327,557	1,149,614	1,177,943	942	629
愛 知 県 (R1.9.1)	3,238,514	7,552,001	3,780,169	3,771,832	1,889	△ 309

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	98	105	△ 7	1,122	1,000	122

【参考】

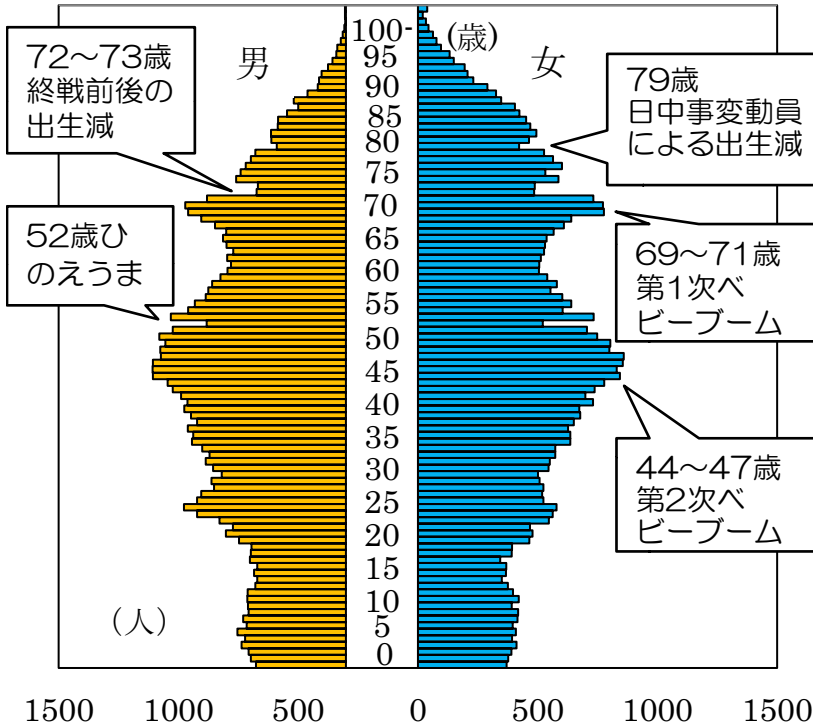
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢3区分別人口の推移

令和元年 10 月 1 日現在の千種区の世帯数は対前月比161世帯増の87,722世帯となっており、人口は対前月比115人増の165,863人となっています。今回は平成30年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢3区分別人口の推移を見ていきます。

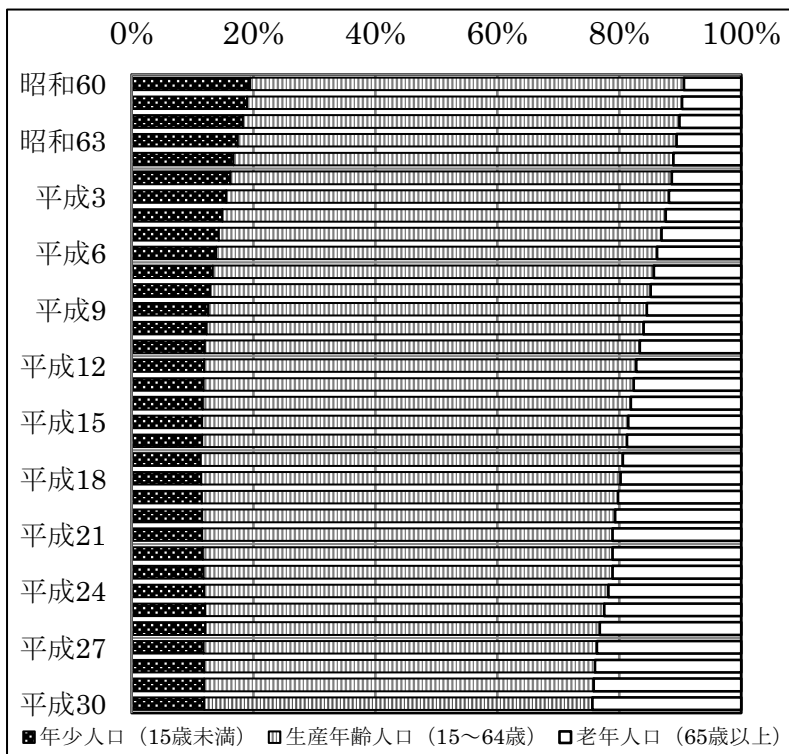
図 1:千種区の年齢各歳別人口構成（平成30年10月1日現在）



平成30年10月1日現在の千種区の人
口を年齢各歳別人口構成でみると、79歳
および72～73歳の年代は日中事変や
第二次世界大戦の影響によって、また52
歳は「ひのえうま」の影響により人口が落
ち込んでいます。

また、69～71歳は第1次ベビーブ
ームの影響によって、44～47歳は第2次
ベビーブームの影響によって大幅な出生
増となっています。千種区の人ピラミッ
ドは、この2回のベビーブームの影響に伴
う2つのふくらみを持つ「ひょうたん型」
となっています。

図 2: 千種区の年齢3区分人口の割合の推移（各年10月1日現在）



昭和60年から平成30年の各年10
月1日現在の年齢3区分人口の割合の推
移を見ます。昭和60年と平成30年
を比較してみると、年少人口（15歳未満）
の割合は7.5ポイント、生産年齢人口（1
5～64歳）の割合は7.3ポイント減少
したのに対し、老年人口（65歳以上）の
3割合は15.0ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平
成12年まで減少傾向でしたが、以降は横
ばいとなっています。生産年齢人口の割合
は平成7年をピークに減少。老年人口の
割合は昭和60年以降増加を続けていま
す。